

# 強い効力

## シロアリに確実に効く。

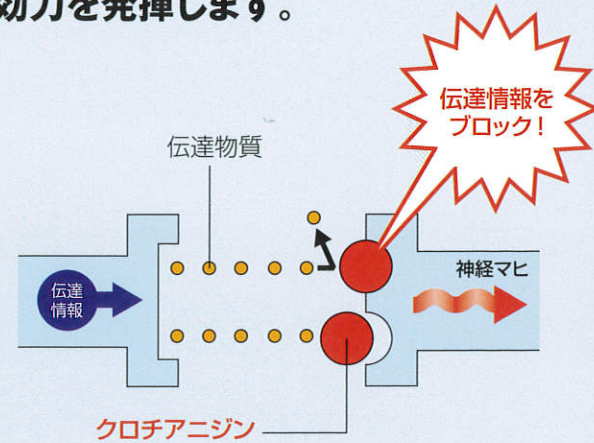
シロアリの神経をマヒさせ、強い殺蟻効力を発揮します。

クロチアニジンは、ネオニコチノイド系の最先端薬剤。シロアリの神経伝達部分に作用して、神経をマヒさせるため、強い殺蟻力と高い安全性を発揮します。

■ 野外試験(試験機関:近畿大学)  
タケロックMC50スーパーで処理した土壌では、木材片はシロアリの被害を受けていないが、未処理の土壌では蟻害が確認できる。

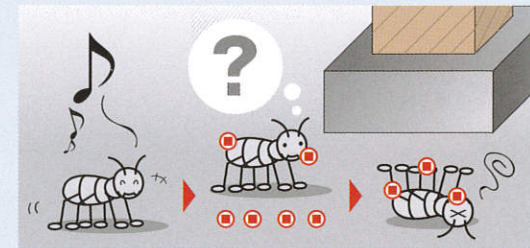


■ 試験地:鹿児島県南さつま市高橋洞国有林  
■ 試験期間:平成14年10月~平成16年12月  
■ 試験方法:(公社)日本木材保存協会規格(JWPS-TS-S)「土壌処理用防蟻剤等の防蟻効力試験方法および性能基準」による。



シロアリに気づかれず駆除します。

虫が嫌がる成分を含まないため、シロアリに気付かれることなく有効成分が付着し、確実に駆除します(忌避性はありません)。

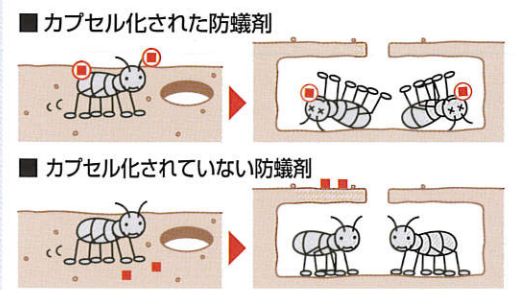


さらに、長く!

## 有効成分の高い持続性と、広がる効力。

シロアリに付着して効果が広がる。

マイクロカプセル化により、有効成分の持続性をアップ。さらにシロアリの体に付着したカプセルが、グルーミング(体をなめ合う行動)によって他のシロアリにもくっつき、効果が広がります。



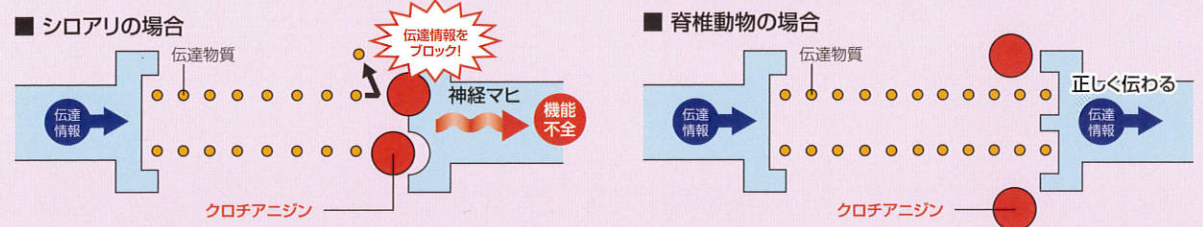
# 人にやさしい

## クロチアニジン

## 人やペット(犬・猫など)にやさしい。

人やペットなどへの影響は低く、安心してお使いいただけます。

クロチアニジンはシロアリの神経伝達部分(ニコチン性アセチルコリン受容体)に作用し、神経をマヒさせて死亡させます。しかし、神経伝達部分(受容体)の構造が異なるため、人やペットなどの脊椎動物にはほとんど影響がありません。



クロチアニジンは毒・劇物ではありません。

クロチアニジンは安全性が極めて高く、散布直後であっても人体への影響はほとんどありません。ラットを用いた実験では、クロチアニジンの急性経口毒性(LD50)は5000以上と、食塩よりも毒性が低いとされています。

■急性経口毒性(LD50)とは

口から1回で投与した(食べさせた)場合、投与した試験動物の半数(50%)を死に至らしめる量を意味し、体重1kgあたりの薬量で表します。数字が大きいほど安全性が高く、通常2000以上であれば毒性は弱いとされています。動物愛護の観点から最近では急性経口・急性経皮毒性とも最大2000mg/kgまでの試験となっています。

※1 毒劇物分類はラットの急性経口毒性以外の毒性データによるものです。

■ LD50比較

有効成分	急性経口毒性(ラット)LD50(mg/kg)	毒劇物分類
クロチアニジン	5000以上	該当せず
有効成分A	450	劇物(※1)
有効成分B	92	劇物
有効成分C	441~1152	劇物(※1)
食塩	3000~3500	該当せず
ニコチン	24	毒物
テトロキシン(フグ毒)	0.0085	毒物

出典:The Pesticide Manual 16th Edition(2011年)、農業工業会HP(<http://www.jcpa.or.jp/>)

数値が高いほど急性毒性が低い(=安全性が高い)ことを示しています。

さらに、安全

## マイクロカプセル

## 薬剤が外部に露出しないので、さらに安全。

人にやさしいマイクロカプセル。

もともと空気中に拡散しにくいクロチアニジンを独自の技術でマイクロカプセル化。薬剤が環境中に露出するリスクをよりいっそう低減し、安全性をさらに高めました。万一直接触れても、人体への影響はほとんどありません。

